



第186回 箕ノ裏ヶ岳観察会～紅葉散歩

日時 2020年11月23日（月・祝日）
場所 箕ノ裏ヶ岳
天候 晴れ
参加者 一般34名（うち子供2名）
スタッフ18名 合計52名



黄葉のタカノツメ



岩倉村松のバス停近くの公園から岩倉川へ移動、繁見坂で昼食を取り岩倉実相院横の公園までのルートを歩きました。最初に目についたのはノブドウで、青や紫の実がたくさんついていました。よく見てみるとその色は空色に近いような青から藍色、青みがかった紫から赤みの差したものまでほれぼれとするようなグラデーションで、実にある皮目がアクセントになっていました。

少し歩くとコマユミが割れた果実から赤い仮種皮をのぞかせており、「本当にきれいな赤色ね」との声が聞かれました。コマユミ以外にもサネカズラやコバノガマズミ、ヤブコウジやフユイチゴ等赤い実が色々見られました。積もったパリパリの落ち葉の上を踏み鳴らし、ウリカエデの黄色や橙をみながら歩きました。タカノツメの薄黄色の落ち葉もよく目立ち、葉軸の付け根の膨らんだところをつぶすと少し香りがしました。タカノツメはカツラと同様に落ちてから甘い匂いがするようになる植物のようです。



ヤブコウジとフユイチゴの赤い実が際立ちます

ナワシログミの花が咲いており、「私たちのころはおやつによく食べたのよ。苦くてあまりおいしくないけれど。」と教えていただきました。

店開きでは、草紅葉、まずい実の戦略、帯化タンポポ、葉はなぜ落ちるのか等についての解説がありました。キノコについての解説も多く、全体的に秋らしい内容でした。横で子供たちも店開きをしており、フユイチゴと川の水で作った色水や、木の实を使ったリース、大きな葉を束ねたほうき等を並べていました。お菓子と交換制になっており、周りに集まる人皆を笑顔にしていた。



大人の店開き：帯化の話などを聞きました



子どもの店開き：ノブドウがアクセントのリース



下見とは違ったルートを歩くことになり、一部同じ道を引き返す部分も出てきてしまいましたが、見逃していた植物や違う方向から見て初めて気づくことも多かったよう参加者の皆さんも満足げな様子でした。昼食時には

雨もばらつき、風が冷たかったですが、解散場所の公園についたころには日差しが暖かく、紅葉が赤く透けてきれいでした。



コウヤボウキ



ツチグリ